

あとがき

本年度は、学生九名とともに気多郡の調査を行った。例年と異なる点は、学生自身による「はじめに」と「おわりに」をつけた点である。無駄安留記の調査を通じて、地形と名所という二つのカテゴリーに大きくまとめ、この書物の性格に迫っている。因幡の自然的特徴を豊かに伝える書物であることがあきらかになるとともに、長く深い歴史を学生なりの視点で感じ取ったようだった。地形については、まず長尾鼻では出来る限りの情報を駆使してその自然的な魅力を伝えていくし、酒津・水尻池・小別所茗荷では近世農村・漁村・山村の豊かな一端を表してきている。母木坂・滑石坂では難所も名所となりうるといふ無駄安留記の魅力を紹介してもらった。さらに、いわゆる名所についても今回は亀井茲矩というキーワードが登場し、彼を軸に鹿野城・讓伝寺・布施の清水など今なお残り続ける由緒を知ることができる。これをきっかけに多くの発見もあるのではないかと思われる。拝読いただければ幸甚である。本年度気多郡で報告できなかった場所は、①「鷲峯」（「鷲峯大明神」）、②「幸盛寺」、③「木梨子観音堂」、④「杖突坂」である。①については「鹿奴里」のところで触れているので繰り返さないが、境内には有名な川六の狛犬があり、多くの伝承や信仰も持っている。さらに文献や聞き取りなどを通じて研究すべき霊山であり神社と言えよう。②は、有名な山中鹿之助幸盛の墓を有する寺院で当地を代表する名所といえる。現地調査も行ったが今後の課題である。③についても現地調査を行っている。『因幡志』には、「辻堂＝本地蔵観音」とあるところから、「木梨子観音堂」とはこの辻堂を指すものと考えられる。しかし、多くの辻堂や祠が

あるなかで、なぜこの観音堂だけを記したのかは不明である。無駄安留記の「霊験新にて諸人尊信す」が手掛かりであるが、幕末期にたくに信仰を集めたという資料はない。ほとんど手掛かりすら見つけられないものまで名所となっているところが無駄安留記ならではの懐の深さというか、魅力と言えよう。④は、「母来阪」・「おわりに」のところで少し触れている。本書の中で「坂」は興味深いテーマである。

さて、もともと、鹿野を中心に気多郡や高草郡には亀井茲矩に関する由緒が多いことは承知していたが、無駄安留記に出てくる讓伝寺・鹿野城・幸盛寺等々想像以上に亀井茲矩との結びつきは強い。学生の「おわりに」では、無駄安留記の作者による聞き取りを想定していたが、そこまでしなくても当時の「常識」として亀井と鹿野のつながりは周知のことであったのかもしれない。それを裏付けるものとして付録二に亀井茲矩の年回忌資料を紹介することにした。資料内容については「付記」として簡単に記載しておいたが、鹿野という地域を見ていく際に、このテーマは欠くことのできない重要な歴史的視点を提供してくれている。

次に、この気多郡を見るに当たっては、近世後期の国学をリードした勝宿大明神（＝加知弥神社）の飯田秀雄（二七九―一八五九）と飯田年平（二八二―一八八六）を取り上げないわけにはいかない。飯田家文書は、質・量ともに充実した近世後期鳥取を代表する文学・歴史・宗教関係の資料群である。今回は、付録三として飯田秀雄・年平の履歴に関する資料の一部を紹介することとした。

気多郡の持つ文化的な魅力は、これに尽きることはない。鳥取市に編入されたことでこうした豊かな文化が衰退されることないよう、少しでも我々ができることをしていなくてはいならないと思っている。

（岸本 覚）

2010 年度 無駄安留記隊 隊員

大石 遥 (おおいし はるか)	鳥取大学地域学部地域文化学科
熊田 哲 (くまた さとし)	〃
下垣 友佳里 (しもがき ゆかり)	〃
下田 あゆみ (しもだ あゆみ)	〃
鈴木 亜希子 (すずき あきこ)	〃
古島 さき (ふるしま さき)	〃
森本 航太 (もりもと こうた)	〃
山本 由佳莉 (やまもと ゆかり)	〃
横田 猛夫 (よこた たけお)	〃

茨木 透 (いばらき とおる)	鳥取大学地域学部地域文化学科教員
岸本 覚 (きしもと さとる)	〃
田中 仁 (たなか ひとし)	〃

無駄安留記隊報告書 2010

鳥取大学地域学部地域文化学科 2010 年度地域文化調査

2011 年 3 月 31 日 発行 (非売品)



編者 田中 仁
茨木 透
岸本 覚

発行所 鳥取大学地域学部地域文化学科
〒680-0945 鳥取市湖山町南 4-101

<http://www.rs.tottori-u.ac.jp/ibaraki/mudaaruki/>

印刷 勝美印刷株式会社